

世代超え 支援と交流を

施設 5月オープン

自由スペース活用期待

子どもや高齢者、障害者らが世代を超え支え合える場を目指し、新潟市中央区に5月、街中のビルを活用した交流施設がオープンする。カフェのほか学習支援などで自由に使える場所もあり、若者らの発案で活用が進むと期待される。26日



施設で使われる座椅子づくり協力する生徒ら(26日、新潟市中央区で)

には発起式が行われた。

施設名は「ラップ・オ・タカイニ」。西堀前通の3階建てのビルを利用し、NPO法人のスタッフや学生が運営に携わる。幅広い世代の交流を深めようと新潟市が各区に設置を進めている「地域包括ケア推進モデルハウス」の一つで、中央区では最初の取り組みとなる。

施設の1階はカフェ、2階は子ども勉強や住民の交流などで自由に使えるスペースにし、3階には運営団体の事務所などを置く。高齢者の健康相談や障害者の就労サポート、子育て相談など、様々な分野での支援を目指すという。

この日の発起式には関係者や地元の中学生、大学生ら約40人が出席。中学生らは年上の参加者から手ほどきを受け、施設で使う座椅子

子の製作に取り組んだ。施設の活用方法についての話し合いも行われ、「カフェで料理教室やスポーツ観戦をしたい」「2階でフリーマーケットをしたい」などの意見が上がった。参加した市立白新中(中央区)2

年の太田美優さん(14)は「学校では会えない大人や高齢の人たちと話せるのが楽しみ。放課後などに友達と来たい」と笑顔で話した。施設を運営するNPO法人理事長の本間庸子さん(45)は「様々な人からアイ

デアを募り、皆で運営していく場になりたい」と話し、篠田昭市長は「超高齢化社会でも安心できる市を目指し、各区の施設が工夫している。学生の力を借りるのは中央区らしい取り組みだ」と期待を寄せた。